

# ミラーさんの脚本

## 第1幕 ー 木村さんをスパイしよう!

### シーン1 ー IMCのオフィスの中で

Mira-san: アイルランド

Kimura-san: ケーダル

Satou-san: ニコ

Shinigami-kun / Narrator-san: カイリ

ミラーさんはコンピューターの前に座っている。働こうとしたけど、木村さんについて考えるのを止められない。そして、となりで、働いている佐藤さんもコンピューターの前にいる。

ミラーさん（泣いている）：なぜ木村さん~~は~~。毎日まっていた。全然連絡しなかった。なぜ？なぜ。。。

ミラーさんは電話を取る。木村さんに電話しようとしたけど、ボイスメールになる。次に、佐藤さんに電話する。佐藤さんは早く取る。

ミラーさん：佐藤さん。時間はありますか？

佐藤さん：あ、ミラーさん！はい、時間はあります。何を手伝ってあげますか？

ミラーさん：ありがとうございます！僕のキュービクルに行ってくださいませんか？何か聞きたいんです。

佐藤さん（びっくりしている）：へ？あ、はい！できます。

佐藤さんは鏡（かがみ）を見て、ミラーさんのキュービクルへ行って、話し始める。

佐藤さん：はい！いますわ！何でしょうか？

ミラーさん：あの、佐藤さんは木村さんのこと、よく知っているでしょう？

佐藤さん：知っていますわよ。けれどどうして聞きましたか。

ミラーさん：ちょっとお願いがあるんですけど。

佐藤さん： はい。何ですか。

ミラーさん： 木村さんが彼氏いるかどうかを教えてくださいませんか。

佐藤さん： 彼氏？ 全然分かりませんわ。

ミラーさん： では、それをスパイに行きましょう。

佐藤さん： 今？ でも、すぐ会議に行かなければいけないでしょう？

ミラーさん： 田中さんに会議をしてくれるように頼みました。佐藤さんも暇（ひま）でしょう？

佐藤さん： ああ、そうなんですか？ はい、暇です。じゃあ、今行きましょうか？

ミラーさんと佐藤さんは一緒に出る。

## シーン 2 ー ラーメン店の前で

ミラーさんと佐藤さんは大阪（おおさか）にいる。それに、木の後ろにいる。

ミラーさん： これは木村さんの好きなレストランの一つでしょうか。

佐藤さん： はい。木村さんがこのレストランに入るのがよく見られますわよね。

ミラーさん： そうですか。木村さんは本当に彼氏がいるかどうか知りたいです。

佐藤さん： はい、私も。あ、あそこ！木村さんみたいです！

ミラーさん： へえ？ 男性と一緒にいますね。

木村さんと新しい男の人が入る。一緒に歩いて、木村さんは笑っている。ラーメン店へ行く。  
ミラーさんと佐藤さんはサングラスを掛けて（かけて）、店へ行く。

## シーン 3 ー ラーメン店の中で

木村さんと男の人はテーブルに座っていて、ラーメンを食べている。

死神くん： 大阪はあかるすぎるんだぞ。闇（やみ）に帰りたいんだけど。俺の暗い（くらい）部屋のフロアで寝たい。。。

木村さん： そんなに落ち込まないで。今日はいい天気だ。

死神くん： いやいや、天気が悪いぜ。さあ、曇りになるかな。その場合は、コンサートに行こうと思う。

木村さん： ねえ、死神くん、彼女はまだいないの？

死神くん： 彼女は必要はないぞ。俺は闇と同じようだぜ。

木村さん： そんなこと言わないで、死神くん...

ー佐藤さんとミラーさんはラーメン店に入るー

木村さん： 前に結婚の約束をしたじゃないの。

死神くん： やれやれ、いずみなら、結婚してもいいけど、天気予報記者としてお金持ちだろう。なんて易しい人生だぜ。

木村さん（笑っている）： だめよ。頑張ってみたら、結婚できるんだよ。

死神くん： やれやれ、頑張る（がんばる）のは。。。めんどくさいね？ これからは一人で住みたい。

木村さん： その人生は面白そうわよ。じゃあ、食べちゃった。公園に行こうか。

死神くん： そうか。分かる。曇りになるといいんだけど。

木村さん： あ、曇りになるのなら、大変ね。公園のかわいい動物が見られないわね。

死神くん： それでもいいんだけど。。。。

ミラーさんはびつくりする。木村さんと男の人が出る。ちょっと待った後で、ミラーさんと佐藤さんも出る。

## シーン4 ー 公園で

木村さんと男の人は草の上に座っていて、話す。ゆっくり、ミラーさんと佐藤さんはとなりで歩きながら話す。

ミラーさん： 佐藤さん、その男性は。。。本当に木村さんと結婚しますか？

佐藤さん： そのようですね。でも、ちょっとびつくりするんだけど、その人は。。。。

ミラーさん： 怖そうですね？ あ、なぜ木村さんはそのような人が好きなのだろう。。。僕は。。。その男性と同じようになつたほうがいいかなあ。

佐藤さん： あ、いいえ！ミラーさんのように見えることもいいですわよ！実は、ミラーさん。。。

ミラーさん： あ、あれ！こちらを見ます！早く！

木村さんは周りを見る。でも、ミラーさんと佐藤さんはすぐ木の後ろへ行く。木村さんと男の人の会話を聞きます。

木村さん： あ、何もいないね。じゃあ、公園はそれほど悪くないでしょ？

死神くん： ちょっと。

木村さん： ちょっと？

死神くん： うん、暑過ぎるんだから。

木村さん： 暑すぎるの？死神くんは最も難しいね。大阪（おおさか）について好きなことがあるの？

死神くん： えと。。。図書館？

木村さん： 図書館だけ？あ、だめよ！大阪城とか大阪市立科学館（おおさかしりつかがかん）とかどう？

死神くん： えええ。。。興味がない。

木村さん： 全然（ぜんぜん）分からない（わからない）わよ。あ、ちょっと待って。

木村さんは立って、木の後ろを見る。皆さんはびつくりする。

木村さん： ヘー！ミラーさんと。。。佐藤さん？

ミラーさん： あ、あ！木村さん！久しぶりですね！

佐藤さん： 木村さん、元気ですか？

木村さん： はい、元気です。あ、死神くん！こっち来て！ミラーさん、佐藤さん、私の従兄弟ですよ。

ミラーさん： あ！従兄弟？？

佐藤さん： ああ、従兄弟ですね！初めまして！

死神くん： あ、はい。僕は木村・死神です。どうぞよろしく。

ミラーさん： はい！どうぞよろしく！僕はマイク・ミラーです。佐藤さんと働いてます。

佐藤さん： 私は佐藤・けい子です。IMCの社員で木村さんの友達です。どうぞよろしく。

死神くん： あ、佐藤さん。たくさん面白いことを聞いていました。例えば、去年、会社パーティーで、ビールを飲んだらー

木村さん： あ、はいはい！佐藤さんについてよく話しますよね！でも、どうして今一緒にここにいますか。

ミラーさん： ああ、そうか。ええと。。あのう。。。

死神くん： 知っていますよ。デートしてるんだろう。

佐藤さん： あ、あ。。。

ミラーさん： ヘー！いいえ、無理ですよ！実際は。。。ええと。。。会社の活動ですよ！

木村さん： 会社。。。活動？IMCがそんなことをするのを知りませんでした。

佐藤さん： 社会の活動。。。あ、はい！そうですよ！社会の活動だけです。。。

死神くん： へ、本当ですか？

ミラーさん： そうですよ！デートしていません。恋人がいません。

佐藤さん： ええと、すみません。今、気分が悪いんですが、すぐ行かなければなりませんわ。

木村さん： あ、本当ですか？残念ですね。

佐藤さん： はい、失礼します。

佐藤さんは出る。

ミラーさん： あ、佐藤さん。。。あ。

木村さん： あの、一緒に来ましたか？

ミラーさん： はい、そうです。すぐ行つたほうがいいですね。

木村さん： そうですね。佐藤さんは本当に気分が悪かった場合には、佐藤さんの世話をしたほうがいいですよ。あ、あれ？犬ですか？あ！ミラーさん、また後で！

木村さんは遠く（とおく）まで走る。

ミラーさん： え、あ！木村さん、待ってください！木村さん。。。

死神くん： ミラーさん、いずみが好きですか？

ミラーさん： あ、ええと、はい？

死神くん： いずみの恋人になりたいんですか？

ミラーさん： あ、死神くん、木村さんについてよく知っていますか？ 教えてくださいませんか？

死神くん（笑っている）： ダサい。

死神くんが出る。ちょっと待った後で、ミラーさんも出る。

## 第2幕 ー 木村さんとミラーさんはデートしますか？

### シーン1 ー IMCのオフィスの中で

ミラーさんと佐藤さんはミラーさんのキュービクルにいる。

ミラーさん： 佐藤さん、いい考えがあるんです。

佐藤さん： （悲しくて）何なのでしょう。

ミラーさん： 木村さんに告白しようと思います。

佐藤さん： え？ まじ？ 木村さんはミラーさんに告白されますか。

ミラーさん： 告白される？ いや、告白してあげると思います。

佐藤さん： 木村さんはミラーさんに興味がないと思いますが。。。

ミラーさん： へ？ どうしてそう思いますか。

佐藤さん： そんな気がするだけです。

ミラーさん： 告白しようと思います。アメリカには「YOLO」という言葉があります。「YOLO」というのは後悔なしでしてみたいことを全部しようという意味です。

佐藤さん： それなら、計画がありますか。

ミラーさん： 公園でピアノを弾いて告白しようと思います。

佐藤さん： 木村さんは忙しい人なので昼休みにしたらいいと思います。

ミラーさん: アドバイスを教えてくれてありがとうございました。

ミラーさんは少し考えて、電話を取る。木村さんに電話し始めていて、出る。佐藤さんはキュービクルへ行って、ミラーさんの写真を見る。

## シーン2 ー 公園で

木村さんが入る。ミラーさんを探しているけど、見ない。でも、ピアノの音楽が聞こえる。木村さんは周りを見て、クラシック音楽を引いているミラーさんが見られる。

木村さん: あの。。。ミラーさん。何をしていますか。そのピアノはいつたいどこで手に入れたのですか?

ミラーさん: 木村さん、来てくれてありがとうございます。大事な話があるんです。

木村さん: え? この時間に私に電話しなければならないほど重要(じゅうよう)なことがあったのですか?

ミラーさん: 座ってください。この花を受け取ってください。すぐにすべてを説明します。

木村さん: 何が起こっていますか? 大丈夫ですか、ミラーさん。心配になってきましたわよ。

ミラーさん: 木村さん、心配しないで。去年からずっとやろうとしていたことを、ついにやろうと決めたんです。

木村さん: ミラーさん、ちょっと怖くなってきましたよ。

ミラーさん(笑い): 木村さん、出会ったときから、私は恋に落ちました。木村さんのことが頭から離れません。毎晩、木村さんの夢を見て、毎朝、木村さんの美しい声を聞くことにしています。

ミラーさん(木村に嫌々ながら座る): いずみ、愛しています。

木村さん: え? 何だつて?

ミラーさん: 私はあなたにとって不十分な人間かもしれないけど、変わることはできます。私たちは運命の相手です。木村さんの一番のファンとして、デートさせてくれませんか?

木村さん: はあ? いやいや、なにそれ? 気持ち悪い!

木村さんが出る。

ミラーさん: 。。。何が起こったのか。僕。。。振られちゃった?

ミラーさんはゆっくり出る。

### シーン3 ー IMCのオフィスの中で

ミラーさんは一人で昼ごはんを食べる。佐藤さんが入る。ミラーさんのとなりに座る。

佐藤さん： ミラーさん、どうしたんですか？

ミラーさん（泣いている）： だめ。。。だめでしたよ。。。終わっています。

佐藤さん： ああ、最悪でしたね。。。。

ミラーさん： はい、僕は最悪の人間ですよ。木村さん。。。。

佐藤さん： ミラーさん、最悪じゃありませんわよ。実は、私はミラーさんが素晴らしいと思いますよ。この会社に来てから、ずっと、ずっと。。。。

昼休みが終わる。佐藤さんはバイバイと言って、出る。ミラーさんはまたびつくりするけど、すぐ、出る。